

塘研究室現地調査報告

7月18日と30日に猪苗代湖にて底生動物相調査を実施しました。これで6月と合わせて4回の調査で9ヶ所(12地点)を調査することができました。

近くに大きな流入河川がない西岸の笹山付近にも北岸の翁島付近と同様に、かなりの数の流水性種が生息していました。流水性ゲンゴロウ類であるモンキマメゲンゴロウがここにも夥しい数見られ、コオニヤンマも分布します。南岸の小倉沢付近にはヒメシロカゲロウ属の一種(おそらくCD)が比較的多く、西岸の崎川浜付近でも1個体を確認しました。中田浜マリーナにはコウホネの群落があり、そこにはコウホネネクイハムシの食痕が確認されました。湖内に広く分布しているのはスジエビ、タイワンシジミ、トウヨウモンカゲロウの3種のようなです。タイワンシジミは南岸の鮎浜付近や東岸の浜路付近でも殻片が見つかりましたが、生きた個体は確認できていません。浜路付近ではゴマダラチビゲンゴロウ(流水性種)を1個体確認しました。これまでに調査した9ヶ所の中では、崎川浜付近、鮎浜付近の生物多様性が極めて低かったです。8月も2回ほど調査を実施予定です。



6月と7月の調査地点(文字で示したのが9つの調査箇所)



上が崎川浜付近, 下が笹山付近



上段, 左: 中田浜マリーナのコウホネ群落。コウホネネクイハムシの食痕を確認した。中: ヒメシロカゲロウ属の一種 CD が生息する南岸の小倉沢付近。右: 舟津川の河口部西に位置する鮎浜付近。この場所よりも西は砂浜が広がり、湖水浴客で賑わう。

下段, 猪苗代湖に広く分布するスジエビ